

まえがき

『構造設計者になろう』 http://www1.ttcn.ne.jp/arc-structure/example_f-wall01.htm)
で公開されている擁壁構造設計講座から、更に一步進んだ実践編です。

構造計算を必要としない木造住宅の設計で工作物申請も必要ない小さな擁壁がある場合、わざわざ構造設計事務所に依頼するのも面倒。 そんな時、自分で設計出来たら、良いと思いませんか？

ここでは意匠設計者の方向けに擁壁の構造設計講座を行ないます。面倒な計算は本設計講座に付属する E X C E L 計算シートを利用しますので簡単に出来ます。

このような感じで擁壁の“構造計算”（構造設計ではなく）は簡単に出来てしまうんです。

ですが、構造設計の実務では構造計算だけではなく、納まりや施工性、意匠性などを考慮しなければなりません。本講座では実務に役立つ一步進んだ実践的な構造設計講座を行います。難しい構造計算になるのではありません。知っているか、知っていないか、少し、気を使うだけでトラブルのない擁壁構造設計が誰でもできるのです。

それでは実務に役立つ擁壁構造設計講座を始めましょう。

尚、本設計講座では最も多く使われる鉄筋コンクリート造 L 型擁壁の設計方法を解説します。尚、工作物申請が不要な見付高さ 2.0m 以下の擁壁を対象とします。

【目次】

1. 擁壁の種類	P. 1
2. 擁壁にかかる力	P. 2
3. 擁壁設計の検討項目	P. 3
4. 擁壁各部の寸法	P. 5
5. 土圧の計算	P. 7
6. 擁壁の転倒、滑動の検討	P. 9
7. 底版下地盤の検討	P. 13
8. 壁、底版の検討	P. 18
9. 構造図を作成する	P. 21
10. 擁壁設計 実践編	P. 23
11. 擁壁構造設計の実践的テクニック、注意点	P. 41